



高等学校国語総合

現代文編・古典編 [改訂版]

指導資料 現代文教材	2
指導資料 古典教材	16
付属DVD-ROM収録教材	22

◎学習の目標を、具体的に箇条書きでまとめました。

評論二 「もの」の科学から「こと」の科学へ 228

教材のねらい

●学習目標

- ・筆者の問題意識を把握し、その論理の展開を理解する。
- ・筆者が自らの論証のために用意した事例の意図や意味を考える。
- ・筆者の論証を整理し、要約する。
- ・筆者の意見に基づいて、他の社会的事象へ敷衍する。

●学習指導のポイント

二十世紀も十五年が過ぎようとする現在、あらゆる物事に対する思考の枠組みそのものの変革が求められている。本教材において筆者は、そのような時代状況の変化を背景として、科学の世界における基本的な考え方の変化（パラダイム・シフト）を踏まえながら、社会全体の「頭の切り替え」の必要性を訴えている。

二十世紀、物理学の世界は目覚ましい発展を遂げた。ニュートン力学では説明できない物理現象を説明するために、量子力学や相対性理論が生まれたのである。化学同様、古典物理学から現代物理学へのパラダイム・シフトは、二十世紀から二十一世紀への過渡状況の中に生きる私たちの、身近な認識レベルにおける意識変化の必要性和アナロジーを成している。表題になっている、「もの」の科学から「こと」の科学へ、という言葉は、そのような文脈において理解されなければならない。

また、筆者が組み立てる論理構成にも注目しておきたい。論証の形

評論二

「もの」の科学から「こと」の科学へ……………◆池田清彦

式には普遍性がある。読み手に身近な話題を具体的な事例として提示し、その背後にある思想を筆者の解釈として取り出していく本教材の論理構成は、評論読解に必要な論証の基本型を学ぶことのみならず、生徒が自身の手で論証を組み立てる際の参考となるはずである。論証の妥当性は、事例の選び方とその組み合わせにかかっている。何を選び、どう組み合わせるのかという、書くための発想を鍛える観点についても留意して学習させたい。

最後に、本教材において筆者は、科学者としての立場から述べた自分の考えが、実は社会全体へと敷衍可能なものである可能性について指摘している。だとすれば、筆者が論証の根拠として取り上げた事例以外にも「頭の切り替え」が求められる事象は数多く存在するはずである。この主張は、読み手である生徒を取り巻く日常世界の問題へと引きつけて考えることもできるだろう。

◎学習目標を達成するための具体的な手だてや注意するポイントを示しました。

学習指導の展開と評価

●学習指導案例（配当時間三時間の場合）

時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点
第1時限	① 本教材についての導入を行う ② 第一段（初め～121・7）を読み、「もの」と「こと」の違いについての筆者の見解を理解する	導入 1 生徒の生きる「二十世紀」のイメージについて確認する。 2 全文を通読する。 展開1 1 第一段の要旨をまとめる。（学習の手引き①） 2 「もの」と「こと」の違いについての筆者の見解を理解する。	1 自由に話し合いをさせてもよい。「二十世紀」についての捉え方が筆者の意見と同じである必要はない。 2 難しい語句や読み方のわからない漢字を確認させる。
第2時限	① 第二段（121・8～122・5）を読み、「こと」の科学」の発想が、全ての社会事象にあてはまることを理解する	展開2 1 第二段を黙読する。 2 第二段の要旨をまとめる。（学習の手引き②①） 3 「こと」の科学」の発想は、すべての社会事象に当てはまることを理解する。	1 表の形で整理させる。 2 「コップの水」と「蛹」の例を踏まえ、「もの」の科学」と「こと」の科学」の考え方の違いを文脈に沿って理解させる。

◎時間・目標・学習内容と指導内容・指導上の留意点を、指導の実際に即して表組みで示しました。

◎「指導上の留意点」は「学習活動と指導内容」の内容と一致するように、同じ番号で示しました。

229 教科書 [p.120～p.125]

◎筆者（作者）の肩書き・業績・作風・著作などについて解説しました。

第3時限		
① 筆者が主張を展開するために採用している論理構成を理解する	展開3	1 第三段を黙読する。 2 第三段の要旨をまとめる。（学習の手引き1②）
② 第三段（122・6）終わり）を読み、「頭の切り替え」が必要な社会事象について考える	まとめ	1 「頭の切り替え」が必要な社会事象について考える。 2 本文の記述を踏まえ、「もの」の科学」と「こと」の科学」の考え方の違いによって、生物多様性の保全への対処が異なることを理解させる。 3 「もの」の科学」の考え方が、手段の自己目的化に陥ることを理解させる。 4 「病気の治療」「RDBの利用の仕方」の事例を踏まえながら、「もの」から「こと」への考え方の変更を促す展開を理解させる。 1 本文を踏まえ、身近な社会事象について敷衍させる。

教材の研究

◎筆者

池田清彦（いけだきよひこ）

一九四七（昭和二二）年。東京生まれ。生物学者・評論家。東京都立大学大学院理学研究科博士課程単位取得満期退学（生物学）。理学博士。山梨大学教育人間科学部教授を経て、早稲田大学国際教養学部教授。構造主義生物学の地平から、多分野にわたって評論活動を行っ

ている。構造主義生物学は、生物における種の変異（進化）が、遺伝子の変化から徐々に起こるのではなく、遺伝子を一要素とする部品間の構造（システム）の変化によって一気に起こると考える点に特徴がある。
主な著書
・『構造主義生物学とは何か 多元主義による世界解読の試み』（一九八八年・海鳴社）
・『構造主義と進化論』（一九八九年・海鳴社）

◎教科書採録本文の出典を示しました。
書名・発行年・出版社に加え、必要に応じて解説を加えました。

◎出典

『ゼフィルススの卵』（二〇〇七年・東京書籍）
本書は、一九九八年（二〇〇七年）にかけて書かれた著者のエッセイをまとめたもの。タイトルの「ゼフィルス」とは、シジミチョウ科の中のミドリシジミなどの一群を指す。ギリシャ神話の西風の精ゼフィロス（そよ風の精）の意）が語源と言われている。
〔本文との異同〕
二十世紀の後年から二十世紀の終わり頃から

◎要旨

〔二〇〇字〕
対象を、固定化した「もの」としてではなく、個別性と多様性に富んだ、流動的な「こと」として扱うことが必要である。二十一世紀においては、科学のみならず、あらゆる社会事象において発想の転換が求められている。（二〇〇字）

〔二〇〇字〕
二十一世紀においては、これまで厳密性と普遍性を追求してきた科学も、個別性と多様性に目を向けなければならなくなってきた。対象を固定化した「もの」としてではなく、個別性と多様性に富んだ、流動的な「こと」として扱う必要がある。硬直した姿勢で問題に向き合うことなく、試行錯誤と修正を繰り返しながら、最善と思われる方策を探り当てていくべきであり、このような発想の転換は、科学のみならず、社会全体にも必要なのだ。（二〇〇字）

※「もの」にもとづいた考え方から、「こと」を前提とした考え方への変化がわかるようにまとめる。「〇〇ではなく、〇〇が必要である。」という基本文を使って整理するとよい。

◎字数制限を付加して、要旨（大意）を掲載しました。
字数制限は、二〇〇字・二〇〇字を原則としました。

◎教材文全体を意味上の段落に分けて表組みで示し、段落ごとに要旨（大意）をまとめ、小見出しをつけました。

●全体の構成

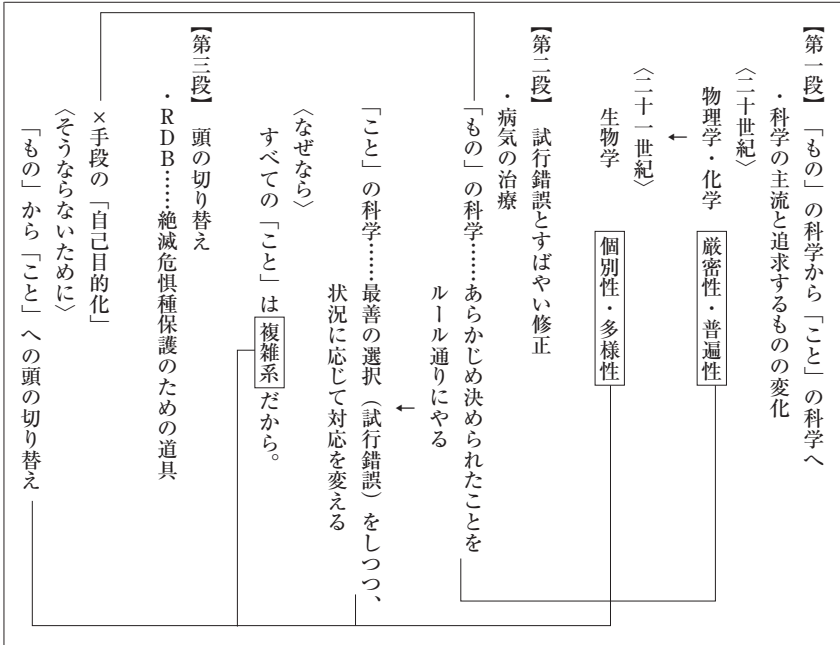
段落	ページ・行	要 旨
第一段	初め～121・7：…要求される。	「もの」の科学から「こと」の科学へ 二十世紀の終わり頃に、科学の主流は物理学や化学から生物学へと移行した。これは、厳密性と普遍性を追求する「もの」の科学から個別性と多様性に目を向ける「こと」の科学へと変化したことを意味する。
第二段	121・8「例えば、病気の…」～122・5「…多くないようだ。」	試行錯誤と修正主義 病気の治療においては、同じ病名だからといって同じ対処法が有効であるとは限らない。だから、最善の方法をつねに模索しながら状況に応じて対応を変えなければならない。
第三段	122・6「例えば、生物の多様性の…」～終わり	頭の切り替えの必要性 RDBは、絶滅危惧種保護のための道具にすぎない。だから、種を保護するための最善の方法をつねに模索しながら状況に応じて対応を変えなければならない。「もの」から「こと」への頭の切り替えは、科学全体ばかりでなく社会全体にもぜひ必要なのだ。

【参考】

ここでは、「事例→一般化」という観点で三段落に整理した。
「例えば、病気の治療について考えてみよう。」→「このことは何も医療だけに限らない。」（第二段）
「例えば、生物多様性の保全について考えてみよう。」→「そして、このことはおそらく他の多くの社会事象にもあてはまるのではないだろうか。」（第三段）

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。

●展開図



●表現の特色

本教材の表現上の特色は、一文の長さが短く、その中で主語と述語が重複することもない点にある（単文構造）。そして、構造の単純な短い文が、接続詞、あるいは接続のための語句によって次の文へとつながっている。

冒頭の三行は四つの文で構成されており、それぞれが「もちろん」「しかし」「ごく乱暴にいえば」という語で接続されている。試みに、この四つの文を一文にしてみれば次のようになるだろう。

二十世紀は科学の時代であったし、もちろん二十世紀も科学の時代になるにちがいないが、その中身は、ごく乱暴にいえば、「もの」の科学から「こと」の科学へと大きく変容するはずだ。

四文で構成された文章を一文で書くと、表現される内容自体に変わりはないが、一文が長くなることで冗長になる。また、「時代であった」「時代になる」「変容するはずだ」と、述語に相当する部分が三か所も出てきてしまうので、文章を読み取る難易度は上がる。本教材がもたらす印象としての文章の読みやすさは、短文（単文）がそれぞれ接続詞でつながっている点に起因している。これは、生徒自身が文章を作成する際にも参考となるだろう。

また、「制御可能性」「普遍性」「多様性」など、「性」という言葉が散見されるが、「性」は「性」であることと読み換えることができる。先ほどの例で言えば「制御（が）可能であること」「普遍であること」「多様であること」と言い換えることができる。「制御可能性」など、漢語が連なった字面のイメージは難解な印象を与えるかもしれないが、解きほぐしてみれば既知の言葉と大きく異なった語義を持つわけではないことがわかるだろう。

◎教材文や筆者（作者）の特徴的な表現について、具体例を挙げながら解説しました。

◎教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

語句・文脈の解説

120ページ

L1 科学の時代 ここでいう「科学の時代」とは、科学が人類を変えた世紀だった、ということだろう。確かに二十世紀における人類の科学の発展にはめざましいものがあった。飛行機・潜水艦・宇宙ロケットなどの開発は、人類の行動可能な範囲を空・深海・宇宙へと拡大し、加えて、北極点・南極点への到達などにより、地球上での人類未踏の地はほぼなくなったのである。ちなみに、米国タイム誌が選んだ二十世紀を代表する顔の中には、フェルミ、シュロツクレーといった物理学者と並んで、プラスチックの父と呼ばれる化学者、ベークランドが入っている。街中に明かりが灯り、自動車走り、飛行機が飛ぶという日常の風景は、そのほとんどが二十世紀の産物であることを確認しておくといよい。

L4 物理学 physics 物理学(フィジックス)は、かつて究理学と訳されていたことから推察されるように、物理現象(物)の理(ことわり)を究めようとする学問である。これに対して、世界の根本的な成り立ちの理由や、物や人間の存在の理由や意味など、見たり確かめたりできないものについて考える学

問としての哲学は、メタフィジックス (meta-physics、形而上学)と呼ばれる。

L4 化学 chemistry 化学は、物質を構成している原子や分子に注目し、その生成と分解の反応、および他の物質との間に起こす反応を研究する学問である。その「反応」を利用した、毒ガスなどの化学兵器も、二十世紀が生み出した負の成果の一つであった。

L5 生物学 biology 生物または生命現象を対象に研究する学問である生物学は、一九五三年、ワトソンとクリックによるDNAの二重らせん構造の提案によって大きく発展することになる。全ての生物の遺伝情報は、DNAの塩基配列によって定まっていることがわかったのである。遺伝情報(ゲノム)の解析は様々な分野で行われており、一九九〇年に始まったゲノムプロジェクトでは、二〇〇〇年の段階でヒトゲノムのほとんどが解読されるに至った。今後、ゲノムデータに基づいた医療分野などへの応用が期待されている。

L5 制御可能性と予測可能性 ここでいう制御可能性とは、人間が対象を操作しつづ支配(コントロール)すること。予測可能性と

脚問・発問

120ページ

問 「二十世紀」「二十一世紀」(1行)はそれぞれどのような科学の時代か。
答 二十世紀は「もの」の科学の時代であり、二十一世紀は「こと」の科学の時代である。
問 「二十世紀」「二十一世紀」それぞれの科学における「主流」(4行)の学問は何か。
答 二十世紀の科学は物理学と化学であったが、二十一世紀は生物学である。

問 「もの」の科学(2行・5行)の特徴は何か。
答 制御可能性と予測可能性を追求すること。

問 「初期条件さえ同じならば、結果も基本的に同じになる」(6行)とはどういうことか。
答 対象が置かれている条件や対象自体の個性に左右されることがなく、手を加えればつねに同じ結果が導かれるということ。

問 「不変」(8行)と「普遍」(121・5行)との意味の違いは何か。
答 「不変」は、変わらない・こと(さま)。対義語は可変。一方「普遍」は、①広く行き渡ること。②すべてのものにあてはまること。すべてのものに共通していること。

対義語は特殊。「普」も「遍」も「あまね(く)」と読み、すみずみまで広く行きわたる、の意。
121ページ
問 「コップの中の水」(1行)と「蝶の蛹」(2行)は何の比喩か。またそれぞれの特徴は何か。
答 「コップの中の水」＝「もの」、「蝶の蛹」＝「こと」という比喩。前者の特徴は不変性であり、後者の特徴は可変性である。
問 「「こと」を扱う科学」(3行)における「やり方」(4行)の特徴は何か。
答 個別性と多様性に目を向けること。
問 二十世紀と二十一世紀の「科学」の違いを表の形で整理せよ。
答 「学習の手引き」参照。

◎内容理解の参考となる興味深いコラムを適宜掲載しました。

コラム

「もの」の科学から「こと」の科学へ
「もの」の科学から「こと」の科学への変化は、ちょうど古典物理学から現代物理学へのパラダイム・シフトとアナロジーを成している。アルベルト・アインシュタインが特殊相対性理論を発表したのは一九〇五年のこと、一般相対性理論は一九一五年にまとめられる。その後、それまでの物理学の常識は「古典物理学」の名前で呼ばれるようになっていくのである。もちろん、現代物理学が登場したからといって、すべての物理現象が解明されたわけではない。私たちの宇宙はまだ謎に満ちていて、不可思議なことに取り囲まれている。

これと同様である。

L8 不変 変わらないこと。次ページ5行目にある「普遍」との意味の違いを確認しておきたい(→発問)。
・不変＝変わらないこと。また、変わらないさま。対義語は可変。
・普遍①広く行き渡ること。②すべてのものにあてはまること。すべてのものに共通していること。対義語は特殊。「普」も「遍」も「あまね(く)」と読み、すみずみまで広く行きわたる、の意。

L8 生物学が扱う対象 現代の生物学が扱う対象は、それが生命現象である限り、不可知が前提である。どこまで事物や現象の背景を追究したとしても、高まるのは仮説の蓋然性であって、ただ一つの真理値が手に入るわけではない。生命情報を司る方法を、まだ人類は手に入れていない。相手が「こと」である限り、確率的にしか解答は得られないということだ。

121ページ

L1 コップの中の水は蒸発さえないければ、いつまでたっても水であるが、蝶の蛹はある時変身して飛んでいってしまう。「コップの中の水」＝「もの」、「蝶の蛹」＝「こと」

答 同じ病名であっても病状は個々人の置かれている状況によって異なるのに、同じ薬を投与すれば治るといのは、硬直した考え方だから。
(解説) 前ページに「初期条件さえ同じな

◎各教材末にある「学習の手引き」に対する解答例と詳しい解説を示しました。

学習の手引き・言葉と表現・漢字

▼学習の手引き▲

一 二十世紀と二十一世紀の科学の違いを、次の観点に沿って表の形で整理してみよう。

二十世紀	主流となる学問	扱う対象	追求するもの	状況への対応の仕方
二十世紀	物理学・化学	「もの」	厳密性と普遍性	あらかじめ決めたことをルール通りにやる
二十一世紀	生物学	「こと」	個性性と多様性	選択しつつも状況に応じて対応を変える

【解答例】

るだろう。前者が、あらかじめピースをはめる場所が決まっているジグソーパズルだとすれば、後者は、正解のない、造形が常に自由にさらされている玩具用のブロックのようなものだと言えることができる。

二 二次の事例における「もの」の科学と「こと」の科学の考え方の違いをまとめてみよう。

① 病気の治療 ② RDBの利用の仕方

【解答例】

① 病気の治療 ② RDBの利用の仕方

・「もの」の科学の場合

特定の疾患に対する最善の治療法があらかじめ特定されているので、あらかじめ決めた方法に従ってルール通りに治療を行う。

・「こと」の科学の場合

特定の疾患に対する具体的な治療法が最善であるのかどうかは不確定なので、患者の病歴や病状の推移を踏まえ、治療の効果を確認しながら治療を行う。

② RDBの利用の仕方

・「もの」の科学の場合

特定の昆虫がRDBに載っていたら、その昆虫を全面採集禁止にすることで生息数と生息環境の保全を目指す。

・「こと」の科学の場合

生息数を維持するための要因をすべて特定することはできないので、地域を限定した採集禁止や人工飼育、アマチュア愛好家のデータの活用などさまざまな方法を試しながら生息数と生息環境の保全を目指す。

◎教材文に出てくる漢字や語句を中心にした練習問題を複数掲載しました。

▼漢字▲

一次の漢字を使った熟語を例にならってあげよう。

- ① 蒸発 ② 多様 ③ 絶滅

【解答例】

- ① 開発・揮発・偶発・啓発・激発・再発・自発・出発・挑発・摘発・突発・爆発・奮発・乱発・利発
- ② 異様・同様・文様・模様・両様
- ③ 絶縁・絶佳・絶海・絶叫・絶句・絶交・絶好・絶賛・絶息・絶対・絶品・絶妙・絶壁・絶望・絶命

二次の漢字を使った熟語をあげよう。

- ① 求・究・及
- ② 殖・植・値・置
- ③ 採・采

【解答例】

- ① 希求・請求・探求・追求・要求・欲求・求愛・求心・求道
- ② 究学・研究・考究・追究・論究・究極・究明・究理
- ③ 企及・言及・追及・波及・普及・論及・及第
- 殖 殖財・殖産・学殖・生殖・増殖・拓殖・繁殖・養殖・利殖
- 植 移植・誤植・定植・入植・植字・植樹・植民・植林
- 値 卸値・価値・数值・近似値・値段・値札
- 置 安置・位置・拘置・処置・設置・措置・配置・放置

三次の熟語の対義語を調べよう。

【解答例】

- ① 特殊 ② 一様 ③ 単純・簡単 ④ 消極的

【教科書ページ・行】

- 制御 (120・5) 蒸発 (121・1) 厳密 (121・5)
- 普遍 (121・5) 疾患 (121・8) 硬直 (121・11)
- 柔軟 (121・12) 考慮 (121・15) 試行錯誤 (122・4)
- 危惧 (122・7) 山梨 (122・8) 飼育 (122・15)
- 増殖 (122・16) 密猟 (124・2)

◎教材文や出典、筆者（作者）について詳しく解説しました。

研究・発展

◎作品解説

『環境問題のウソ』のあとがきで著者はこう述べている。

私が若い人たちに言いたいのは、世間で流通している正義の物語りを信じるのは、墓に入ってからでも遅くはないってことだな。「正義」というのはあなたの頭を破壊する麻薬である。麻薬中毒になる前に、たとえごくわずかでもよい、抵抗せよ。（『環境問題のウソ』あとがき）

本教材の中で筆者が批判するのは、『もの』の科学」という固定化した思考の方法である。権威や経験、制度や雰囲気呑まれて安易に下してしまう判断の危険性に対して、警鐘を鳴らしていると言っている。例えば、本教材のヤンバルテナガコガネのように、種を保存するために保護される生き物がいる一方、在来種を保護するという目的のもと、駆除される生物もいる。ブラックバスがその好例である。アメリカ産のブラックバスは、一九二〇年代以降、食用や釣り対象魚として各地の湖に放流されたのが移入の始まりと言われているが、その後多数の地域で見かけられるようになり、一九九九年、新潟県は釣り上げた外来魚（オオクチバス、コクチバス、ブルーギルなど）のリリース（再放流）の禁止に踏み切った。これにより、違反者は一年以内の懲役もしくは五十万円以下の罰金に処されることとなったのである。結果、二〇〇〇年以降、全国の漁業調整規則で外来魚の密放流禁止が進んでいる。著者は言う。

ブラックバスが日本に移入されて以来八〇年が経つが、ブラックバスにより滅ばされた日本の在来種は一種もない。もちろん、人間に健康被害を与えているわけでもない。それどころか、ブラッ

クバスは釣り業界にかなりの経済効果をもたらしている。ブラックバスを特定外来種に指定して駆除の対象とすることで、釣り業界に与える経済的打撃と駆除に費やす税金というダブル・デメリットの見返りの大義名分は、日本の生態系を守るためだという。CO₂の排出を抑制しないと世界はそのうち大変なことになる。焼却炉からのダイオキシンの排出を規制しないと国民の健康は守れない。外来種を駆除しなければ日本の生態系は守れない。すべて同じパターンのウソ話である。（前掲書90～91ページ）

ルールが制度化すれば、その結果、受け取り手としての私たちはその制度を絶対だと思ってしまう。そこにあるのは、安易な善悪の二項対立であって、ルールが設定される際に求められたはずの目的の妥当性や、制度化が常態となった場合に引き起こされるさまざまな問題群などが看過されてしまう。ブラックバスだけが「悪玉」だとは限らないのである。「同じパターンのウソ話」とは、本教材における、現象を固定化した「もの」と考える悪しき思考の典型」（122・11）と呼応しているのが見て取れる。

外来生物が生態系に影響を与えるとしたらただひとつ、生態系の種類組成を変化させることだ。しかし、系すなわちシステムは要素が変化するからこそシステムなのであって、生物相すなわち種類組成やその割合が変化しない生態系などはない。（中略）長いタイムスケールで見れば、外来の生物が侵入するのはむしろ常態であって、固有生物相を死守しようというのは、コトバの真の意味でのアナクロニズムである。（同前92ページ）

生態系は、流動性・可変性を含んだ「こと」である。固定化した静態ではありえない。もちろん筆者は、流動体としての生態系を肯定する一方で、人為的な介入を含めた環境の激変自体を肯定しているわけ

ではない。自然環境の人為的改変によって増加した外来種と減少した

在来種とがいる場合、その責を負わねばならないのはあくまで人間の側であって、ブラックバスのような特定の生物ではないだろうと言うのである。自分たちが勝手に環境を変化させた上に、数が増えたら特定の生物を間引こうとする発想は、規制に振り回された結果自分の首を絞めてしまっていることに気づくことのできない、悪循環の思考、『もの』の科学」の帰結なのである。

◎参考資料1

「フロンガス」や「環境ホルモン」の脅威を、声高に叫ぶ人はいなくなつた。今、私たちを取り囲むらしき「脅威」の一つ一つが、実は「流行」の亜種である可能性は否定できない。

環境問題には「流行」がある

一九五〇年代から一九六〇年代にかけてのもうひとつの大きな問題は、大気汚染に代表されるいわゆる公害問題であった。しかし公害問題は技術の進歩によってあらかた克服されてしまつて、今は空気も水もずいぶんきれいになった。その後出てきたのが、ゴミをどう処理するかという問題であった。

一九六〇年代までは、ゴミはそれほど大きな問題ではなかったと思う。家電製品の数は今ほど多くはなかったし、使いはじめで、捨てられる数も少なかったから、それらはまだ厄介なゴミにはならなかった。ほとんどつかないようなテレビまでもが中古の商品として売られていたぐらいいつたのである。ところが、三〇年ぐらい前から、ゴミの問題は次第に大きくなってきた。

家電に関連して言うと、一時、盛んに騒がれた話としてフロン

の問題にか、あまり誰も言わなくなった。

実は、最近では、フロンガスがオゾン層を破壊する主たる原因なのか、どうも怪しくなってきたのである。どうやら、南極の温度が下がるとその上空のオゾンが破壊されるという説が近年、有力になってきたらしい。つまり、オゾンホール

の増大は、太陽活動に関連した南極の気温の低下が主因だったのではないか、ということなのである。

また、一時「環境ホルモン」が野生動物のメス化を促進するとして大きな問題になっていたが、これも最近ではどうやらガセネタらしいということが判り、言及されなくなった。

このことからわかるように、環境問題にはある種の「流行」のようなものがある。その時どきの、いちばん、ウケる、話題が一気に出てきて、それだけが最大で唯一の環境問題になってしまふ。逆に言えば、あとのことは別にたいした問題ではないというような感じにさえなりがちである。

現在でいえば地球温暖化を招く温室効果ガスの二酸化炭素(CO₂)の排出量をどう削減するかということが環境問題における最大のテーマのようになっているけれども、あと二〇年もしたら、CO₂の問題もあまりたいした問題ではなくなるのかもしれない。CO₂の代わりに別の「問題」が大きく取り上げられるようになるのではないかと気がしてならない。とにかくいまは、CO₂による地球温暖化が環境問題における最大の「流行」になっているのだ。

『新しい環境問題の教科書』池田清彦（二〇一〇年・新潮文庫）

◎参考資料2

「『もの』の科学から「こと」の科学へ」という発想が、実体論から

◎付属の「補充教材集」「実力問題集」にも掲載されている文章は、それぞれ 圃・実 と記しました。

◎教材と関係の深い、指導に役立つ資料を複数掲載しました。

圃・実

圃・実

課題

一 ☆筆者が考える「労働の本質」とはどのようなものか。まとめてみよう。

【解答例】

労働の本質は個人の努力が集団の利益に「かたちを変える」ことのうちに存在している。その労働は、個人の努力が個人に専一的に還元されることを求めず、逆にできるだけ多くの他者に利益として分配されることを求めるような「特異なメンタリティ」によって動機づけられている。それが必要なのは私たちが生き延びるためである。

【解説】

筆者の主張を読み取る。「だが、労働の本質は、そのせいであろう。」(134上・17～134下・6)の段落に示されているのはいうまでもない。さらに、最後の段落「もうわかりだろうが、高いとは思わない」(135下・3～8)の段落で、その「特異なメンタリティ」が必要なのは「生き延びるためである」といっていることにも注目してほしい。

二 ☆若者と労働についてどのようなことが話題になっているか、調べて発表してみよう。

【解説】

正社員なみにフルタイムで働いても生活の維持が困難な「ワーキングプア」、派遣をめぐる「擬装派遣」や「労働者派遣法」、賃金格差の拡大に伴う「格差社会」「貧困」、経済不況に伴う「リストラ」、労働環

境の国際化による「グローバル化」「外国人労働者」などさまざまな問題があげられる。新聞やインターネットなどを適宜活用して調べさせるとよい。

現在の日本社会は雇用や労働環境が悪化している。その原因の一つは正社員を非正規雇用者に切り替える動きである。非正規雇用者は賃金が安く抑えられる上に、企業はいつでも解雇することができるのである。賃金が安いということは、貧困、ワーキングプア、格差社会を生む原因である。雇用が不安定であるということは、働く意義を見出しにくい上に、低賃金と同様貧困を生む原因でもある。

一方、正規雇用者の労働環境も悪化している。リストラによる人員削減で労働量が増え過労死や生活環境の悪化を生む。うつ病になったり自殺を選んだりすることもある。多忙であるがゆえに家庭を持たなければ、少子化にもつながっていく。

その他にも、男女で差別なく働くことができているか、外国人労働者を受け入れるべきか、終身雇用制は望ましくない制度なのか、などさまざまな観点から労働について考えることができる。労働問題に関する書籍は豊富にあるし、新聞や雑誌等でもとりあげられている。図書館やインターネットなども有効に利用し、知識を深めてほしい。

三 ☆「労働」についてのあなたの考えを、八〇〇字程度でまとめてみよう。

【課題の解説】

本文をふまえて書くという条件ではないので、課題文の理解を直接問われているわけではない。労働に関する知識や自分の体験があれば、それをもとに自分の意見をまとめればよい。課題二で調べた

ことを参考にしてもよいだろう。もちろん課題文の筆者の体験をふまえて意見を展開することも可能である。

【生徒解答例①】

私は筆者と同じく、多くの他者に利益として分配されることを求めるような「特異なメンタリティ」こそが労働のあるべき姿であると考えている。また、どんな理不尽な条件でも耐えぬくメンタリティが労働者には必要だ。

最近はやりがいいのある仕事を求めて離職・転職する若者が多いが、それはただの甘えだと思ふ。物が溢れた時代に生まれ、我慢すること知らない今の若者は一度壁にぶつかるとすぐに安易な方向へと逃げてしまう。やりがいいのある仕事を求めるとすぐに嫌なことから逃げていくだけなのだ。

どんなにがんばっても出世できないなど社会にでは理不尽なことはいくらでもある。しかし、自分ではがんばっているつもりでも、その努力が他者に認められなくては意味がなく、だからこそ私は理不尽をすべて飲み込む必要があると考えている。そうすることが他者に評価され成功する一番の近道なのだ。

若いうちの労働は買ってでもしろとよく言うが、いまの若者のようなリセット世代にはこれが通用しない。今が良ければよい、失敗すればまたゲームのようにリセットボタンを押せばいい。これがリセット世代の考えだ。彼らは自分の利益を最優先し、自分の努力がすぐに結果出ること望み、極力無駄を省こうとする。だから彼らは自分にあわないとすぐ逃げるし、自分への直接的な利益にはならない他者や組織への貢献を嫌うのだろう。元プロ野球選手の野村克也は、いきなり大きなことにチャレンジするよりも、当たり前のようにできる基本的なことをしっかりとやるのが大きなことに

チャレンジする際の鍵になるという。

一見無駄に見える他者や組織への貢献、上司からの理不尽な要望などすべて意味のあることであり、「特異なメンタリティ」こそが労働のあるべき姿だと私は考えている。(七三四字)

【生徒解答例①の解説】

これは本文をふまえて自分の意見を展開している。基本的には筆者の主張に添うものになっている。しかし、「理不尽なことはいくらでもある」ことに注目していること、自分が考える若者世代の分析、著名人の発言の引用など用いて、オリジナリティを出している。

【生徒解答例①の評価例】

●観点別評価

- ①課題文の理解度 [A]・B・C・D・E
- ②構成の的確さ [A]・B・C・D・E
- ③論証・例示の的確さ [A]・[B]・C・D・E
- ④結論の明快さ [A]・B・C・D・E
- ⑤語句や表現の的確さ [A]・B・C・D・E

●総合評価 [A]・B・C・D・E

「理不尽なこと」に関する説明にもう少し説得力がほしいが、全体として読みやすく論理的な文章になっている。

【生徒解答例②】

私には夢がある。誰かの幸せをサポートする仕事、ブライダルプロデューサーになることだ。人生で一番幸せな日をプロデュースする仕事は「やりがいいのある仕事」だと思ふ。実際に若者たちの間ではこの職につくことを希望しているものが年々増加している。しかし、いざ見習いとしてデビューした若者の大半は、下積み時代の仕

◎「「いま」を読む」については、評論教材と同様の内容に加えて、教科書で設定された課題について、複数の解答例と解説、評価例を載せています。

◎教材本文を総ルビで掲載して詳細な品詞分解を示し、一文ごとに番号を振って
口語訳と対応させました。(漢文教材では書き下し文と口語訳を掲載しています。)

祇園精舍

◎大意

祇園精舎の鐘、娑羅双樹の花の故事が示すように、人の世は無常で、勢い盛んな者も必ず衰え、強く猛々しい者も必ず滅びる。中国や日本の歴史上の先例にも、その道理は表れているが、最近の例では、平清盛一門のおこった心や猛々しい様子は、それらの先例を超えて、想像を絶するほどにひどいありさまであった。

●全体の構成

段落	ページ・行	大意
第一段	初めゝ58・3「塵に同じ。」	盛者必衰の理 祇園精舎の鐘、娑羅双樹の花の故事が示すように、人の世は無常で、勢い盛んな者も必ず衰え、強く猛々しい者も必ず減びる。
第二段	58・4「遠く異朝を」ゝ終わり	盛者必衰の先例・清盛の登場 中国や日本の歴史上の先例にも、その道理は表れているが、最近の例では、平清盛一門のおごった心や猛々しい様子は、それらの先例を超えて、想像を絶するほどにひどいありさまであった。

● 品詞分解

① 祇園精舎 ぎをんしやうじや

① 祇園精舎 ぎ こん せい しゃ	の	格助(体修)	鐘 かね	の	格助(体修)	声、諸行無常 こゑ、しよぎやうむじやう	の	格助(体修)	響き ひびき	あり。	② 娑羅双樹 しやら さんじゆ	の	格助(体修)	花 はな	の	格助(体修)
いろ、盛者必衰 じやうしやうすい	の	格助(体修)	理 ことわり	を	格助(対象)	あらはす。	③ おこれ	る	人 ひと	も	久しから ひさ	の	格助(体修)	花 はな	の	格助(体修)
ず、	ただ	春 はる	の	夜 よ	の	夢 ゆめ	の	ごとし。	④ 猛き たけ	者 もの	も	つひに	副			
助動打消(終止)	副	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	助動(比況・終止)	形ク・連体	係助(並列)	係助(並列)	副					
は	減び ほろび	ぬ、	ひとへに	風 かぜ	の	前 まへ	の	塵 ちり	に	同じ。	形(シク・終止)					
係助(強意)	動(バ上二・連用)	助動(完了・終止)	副	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(比較)	形(シク・終止)								

◎ 口語訳

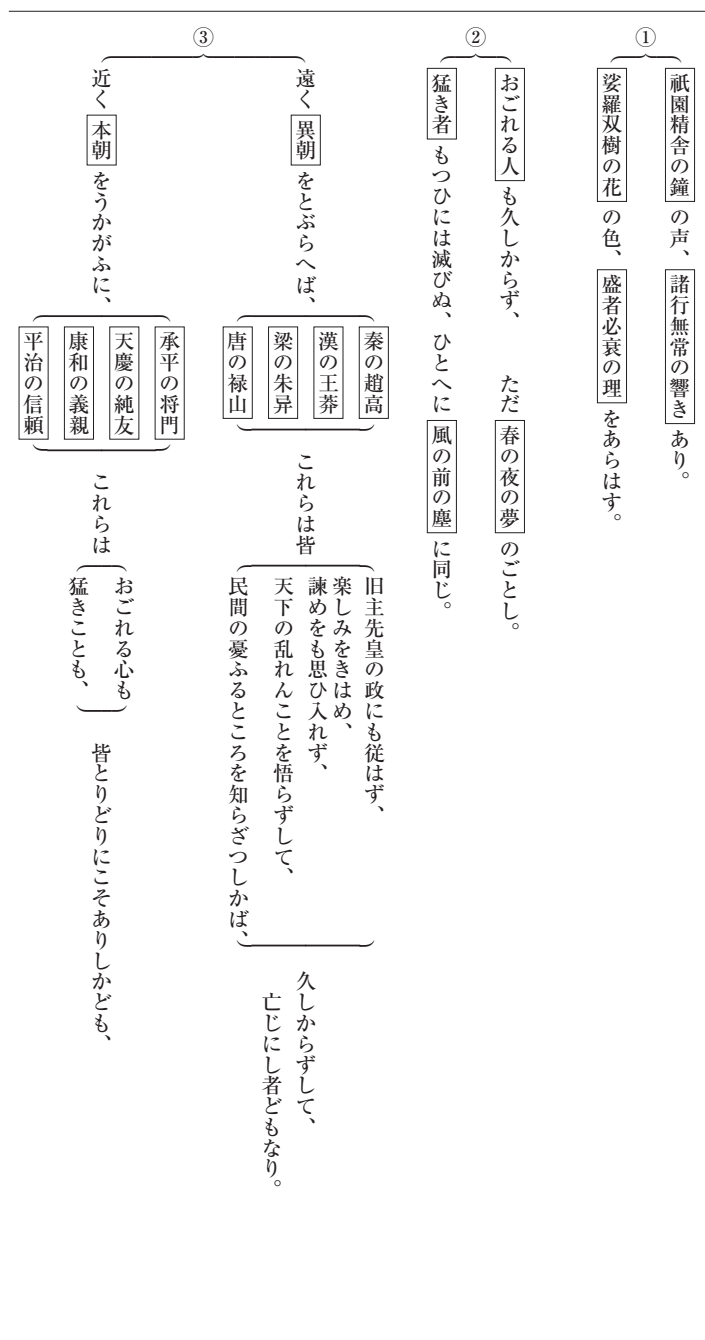
①祇園精舎の（無常堂の）鐘の音色には、全ての現象は刻々に変化して同じ状態でないという真理を示す響きがある。②（釈迦入滅の時に白く変じたと伝えられる）娑羅双樹の花の色は、勢い盛んな者もいつかは必ず衰えるものだという人の世の道理をよく象徴している。③権勢を誇り栄華におごっている者もその状態はいつまでも続くわけではなく、（はかないことは）まさに春の夜に見るつかのまの夢のようだ。④男ましく猛々しい者も結局は滅んでしまうが、それはまったく風が吹けば飛んでしまうような塵と同じ運命なのである。

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。

軍記 平家物語 18

●展開図

この序章の文章は、非常に均整のとれた対句仕立てになっている。全体は、①～④に分かれる。①では、「祇園精舎の鐘」と「娑羅双樹の花」という二つの仏教故事が対句になっている。②では、「おごれる人……」と「猛き者……」が、③では、「遠く異朝……」と「近く本朝……」がそれぞれ対句になり、④の「ま近くは……」という一文で本編の主人公平清盛にたどりつき結ばれるという構造である。



◎教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

19 教科書 [p.58～p.59]

語句・文脈の解説と脚問・発問

58ページ

L1 祇園精舎 釈迦が説法したというインドの寺。中部インドの舍衛国にあった仏教の霊域。祇園は「祇樹給孤獨園」の略。もとは、舍衛国の皇子祇陀太子所有の庭園「祇陀林樹園」だった。釈迦に帰依した須達長者がこれを買収、仏教の僧院や堂舎を造って寄進した。須達長者はさらに、孤児や身寄りのない老人に衣食を施したため「給孤獨長者」と呼ばれた。この二人の名をとって「祇樹給孤獨園」、略して「祇園」と呼ばれるようになった。「精舎」は精進の堂舎の意で、僧たちが仏道を修行する場をいう。釈迦は、後半生の二十五年間、この祇園精舎で雨期を過ごし、さまざまな説法を行ったという。『阿弥陀經』をはじめ、現存する經典の七、八割がこの精舎で説

かれたという。

L1 鐘の聲 祇園精舎の中の無常堂の鐘の音。祇園精舎は大規模なもので、十二の塔、七十二の講堂、三千六百の坊舎、五百の樓閣が整備されていたという。その中で、無常堂は、瀕死の病僧を収容する御堂で、臨終間近い僧に静かに死を迎えさせる場所であった。白銀で飾られ、四面の廊に白華を置き、壁には死んだ人の肉体が糜爛し白骨化するまでの経緯を写した「白骨非常の相」の絵があった。廊の四つの角に白銀の鐘、室内の四隅に玻璃（水晶）の鐘が置かれていた。病僧がいよいよ臨終という時にこの八つの鐘がおのずと鳴って、耳を澄ますと「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為楽」の四句の偈が聞こえ、聞き惚れているうちに病僧は苦悩を忘れ、清涼

58ページ

脚問・発問

問 「祇園精舎の鐘の聲」(1行)と対句になっている部分を抜き出せ。
答 娑羅双樹の花の色 (58・1)
解説 どちらも釈迦に関わる故事に由来する言葉。また、これらの言葉に続く、「諸行無常の響きあり」と「盛者必衰の理をあらはす」も対句になっている。
問 「春の夜の夢」(2行)、「風の前の塵」(3行)で共通してたとえていることは何か。
答 頼りなくはないこと。
解説 どちらも、はかないもののたとえとしてよく用いられる言葉である。
問 「遠く異朝をとぶらへば」(4行)と対句になっている部分を抜き出せ。
答 近く本朝をうかがふに (58・7)

④ ま近くは、前太政大臣、平朝臣清盛公。と申しし人のありさま、伝へ承るこそ、(心もことばも) 及ばね。

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎教科書に掲載されている図版や写真についても解説を加えました。

◎内容理解の参考となる興味深いコラムを
適宜掲載しました。

軍記 平家物語 26

＊語句

理「名」①ものごとの道理。筋道。②判断。裁定。③説明。言い訳。理由。④謝罪。とぶらふ「他八四」①訪問する。訪れる。②捜す。調べる。③見舞う。安否を問う。承る「他ラ四」①「受く」の謙譲語②お受けする。②「承諾する」の謙譲語③承諾しあげる。③「聞く」の謙譲語④お聞きする。拝聴する。④「見る」の謙譲語⑤拝見する。

コラム

「祇園精舎」その後

「祇園精舎」は、このあと、桓武平氏の系譜が語られる（参考）参照。桓武天皇から書き起こし、清盛は十一代の後醍醐天皇となる。しかし最後に「殿上の仙籍をは未だ許されず」とする。数々の戦で戦功をあげたとはいえ、平家はまだ殿上に上ることを許されない「地下人」であった。父忠盛が初めて殿上人となり、平家の栄華への第一歩を踏み出す。次の章段「殿上の闇討ち」では、忠盛が殿上人の仲間入りをしたと、それに対して上流貴族たちが激しく反発していやがらせをしたこと、忠盛は賢い人で、そのいじめから深謀遠慮で逃れたことが描かれる。

コラム

平曲としての「祇園精舎」

「平家物語」は琵琶法師の語り（平曲）によって広く流布することになった。平曲は一章段ごとに独立しているので、必ずしも冒頭から順番に聞かせていったわけではなく、リクエストに応じて演じられる場合も多かった。当然、人気のある章段とそうでもない章段には差がある。特に人気があったのは、「木曾最期」「敦盛の最期」「那須与一」などである。ところで冒頭の「祇園精舎」であるが、これは琵琶法師にとっても極めて特別な章段で、平曲においては「秘事」の一つとされていた。秘事というのは、平曲伝授の上で特に意味づけの行われた曲である。秘事は、平曲伝授の過程で、まず平物（百八十八句）を習得しなければ、伝授されなかった句である。秘事は全部で十一句（曲）あり、「祇園精舎」はそのうちの一曲であった。

図版解説

「平家物語」の冒頭。
（解説）十二巻、約百九十段の中で、冒頭の章段である。「平家物語」の序章として、作品の主題を表すともいわれている。

図版解説

●平家琵琶（教科書59ページ）

この琵琶の銘は「相応」。琵琶の起源は古代ペルシアであると考え、日本では、中国経由で渡来した雅楽用の琵琶（楽琵琶）と、インドから東南アジアを通じて来たと言われる九州の盲僧琵琶に分かれている。平家琵琶は、容姿は楽琵琶に近いが、それよりひと回り小さい。また、楽琵琶が四絃四柱で、柱の位置が固定されているのに対し、平家琵琶は、四絃五柱で、柱の位置は可動式である。「平家物語」は、この平家琵琶を用いた琵琶法師（琵琶を演奏する僧形の盲人）によって語られることで、広く流布することとなった。安徳天皇の墓前で壇の浦合戦を語った盲目の若者、芳一が平家の亡者に両耳を奪われる「耳なし芳一」の話は有名。奥村俊郎蔵（京都市歴史資料館提供）。

◎採録教材の主題や、関連する章段や作品への言及など、
教材への理解を深める内容を掲載しました。

27 教科書 [p.58～p.59]

◎鑑賞

「平家物語」は数多くの諸本があり、それら諸本間には同じ作品なのかと首をかしげるほどの大きな異同すら存在する。そのような中であって、この「祇園精舎」の部分はほぼ全ての本が有しており、しかもさほど大きな異同が見られない。この章段が「平家物語」という作品にとってそれほど重要な意味をもっていたということであろう。「諸行無常」「盛者必衰」という観念は「平家物語」全体に通底する概念として、冒頭に置かれなければならないかったのだ。

当該章段では、この「諸行無常」「盛者必衰」の観念を表現するべく、「祇園精舎の鐘の声」「婆羅双樹の花の色」という仏教故事から説き起こす。そしてこの観念のもとに、身を滅ぼしていった歴史上の人物たちの例をあげていく。有名な人物たちの名が実例としてあがることで、読者や聴衆は、その因果関係をなると実感できたことであろう。

そして物語は、そういった人物たちの極めつけとして平清盛を取りあげ、その出自より語り始める。しかし、「平家物語」が清盛の滅びゆくさまを描くことを目的としていたかというと、そうではない。そもそも清盛は物語の中盤で病死という理由で退場してしまい、実際哀願の憂き目に遭うのは、彼の兄弟、子や孫なのである。それならば、そんな平家一門の姿に焦点を絞って物語を展開させているかという、たしかにそれが柱の一つになっていることは否定できないが、決してそれが全てというわけではない。「平家物語」はさまざまなところに視線を向ける。平家と敵対する源氏はもちろん、記録類であればその詳細が書きとめられることはなかったであろう人々にもスポットをあて、彼ら個々人の生きざま、死にざまを描いていくのだ。それは群像劇というにふさわしい。

◎参考

「平家物語」が作られてゆく時期――それは、まだ源平の合戦の記憶が生々しく残っている時期であった。合戦は当事者だけではなく、無関係な民まで巻き込んでいく。さまざまな立場、階層の人物たちがそれぞれの立場で経験した源平合戦を語り、そしてそれが、子や孫に受け継がれていく。そういったさまざまな伝承を集約していく形で「平家物語」はできあがっていくのだ。特定の人物を主人公として英雄物語を作りあげるのではなく、記録類では残しきれない、個々人の生きた証を記録していくことを通して、源平合戦時代に翻弄された全ての人々に対する鎮魂の思いを表現しようとしたテキスト、それが「平家物語」なのである。

「祇園精舎」の後半部分を掲載する。物語の発端を登場人物の出自から説き起こすのは、物語の常套的スタイルで、軍記物語の場合は特にこの傾向が強い。この系譜からは、清盛が天皇の皇胤だったなど、彼の貴種性が表れている。清盛が「心もことばも及ばれ」ぬ人であったのも頷けるといえるものだろう。

その先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王、九代の後醍醐天皇正盛が孫、刑部卿忠盛朝臣の嫡男なり。かの親王の御子高親の王、無官無位にして失せ給ひぬ。その御子高望の王の時、始めて平の姓を給はつて、上総介になり給ひしより、忽ちに王氏を出でて人臣につらなる。その子鎮守府將軍義茂、後には国香と改む。国香より正盛にいたるまで六代は、諸国の受領たりしかども、殿上の仙籍をばいまだゆるされず。

（「平家物語 上」（新日本古典文学大系）一九九一年・岩波書店）

◎付属の「補充教材集」「実力問題集」にも掲載されている文章は、それぞれ欄外と記しました。

基本テスト

評價問題集

◆語句・漢字学習シート
教科書の脚注欄に示した語句や漢字について、意味や文法事項を調べ、確認するワークシートです。

◆構成・内容理解シート
教材文の構成や内容を、表や図に整理して理解するためのワークシートです。

[illegible]

6 水の東西		年 組 番 氏 名 ()	
①		得点	/30
<p>— 部の片仮名を漢字に改めよ。</p> <p>① シーソーがたぐり、 ② 無限にくり返される。 ③ 曇ったオシロイ、 ④ 日本のデントウ芸能、 ⑤ ソウダイな水の造型、 ⑥ バロクデコク、 ⑦ 水をアツシユクする、 ⑧ ダンシユクする線。</p>			
<p>— 部の漢字の読み仮名を平仮名で記せ。</p> <p>1点 x 8</p>		<p>— 次のア～ウの 部の片仮名を漢字に改めよ。</p> <p>1点 x 6</p>	
<p>① 水受けが廻ね上がる、 ② 廻りかなリズム、 ③ 何事か起らぬ細切、 ④ 次の音との長い間隔、 ⑤ 廻りかな噴水、 ⑥ 幾何学模様、 ⑦ 廻り物にすぎない、 ⑧ 表情に乏しい。</p>		<p>① ア 絵をカンシヨウする、 イ カンシヨウ用の植物、 ウ 人の生活にカンシヨウする、 エ — イ — ウ — ア 本のギョクデ、 ② イ ギョクデを採掘する、 ウ ギョクデ的な装用。</p>	
<p>— 部の漢字の読み仮名を平仮名で記せ。</p> <p>2点 x 3</p>		<p>— 部の語の品類名をあとで。</p> <p>① 二つの矢を持つてなかれ、 ② この矢にむべしと思へ、 ③ おろかにせんと思ひんや、 ④ 自ら知らずといへども、 ⑤ いはれんや、</p>	
<p>— 部の語句の意味をあとで述べ。</p> <p>2点 x 5</p>		<p>— 部の語の品類名をあとで。</p> <p>① 形容動詞、 a 名詞、 b 動詞、 c 形容詞、 d 形容動詞、 e 副詞、 f 連体、 g 感動詞、 h 接續詞、 i 助動詞、 j 助詞。</p>	
<p>— 部の語の品類名をあとで。</p> <p>2点 x 2</p>		<p>— 部の語の品類名をあとで。</p> <p>① この一矢に定むべしと思へ、 ② 重ねてねんころに修せんことを期す。</p>	

23

付属DVD-ROM

実力問題集

実力問題 1 『羅生門』

「」次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

〔遠洋航海中の軍艦で盗難事件が発生し、「奈良島」という水兵の持ち物から盗品が発見された。「私」は石炭庫の入口に出ている人間の上半身を見つけたが、顔はつきり見えなかった。〕

直覚的に、私は、それを、奈良島だと思いました。さうだとすれば、勿論、自殺をするつもりで、石炭庫へはいらうと云うのです。

私は、異常な興奮を感じました。体中の血が躍るような、何とも云いようのない、愉快な興奮です。銃を手にして、待っていた氣師が、獲物の来るのを見た時のような心もちでも、云いましょうか、私は、殆ど、夢中で、その男にとばかりしました。そうして、氣大よりもすばやく、両手で、その男の肩をつかり、上からおさえました。「奈良島」。

此のとき、驚くともつかずに、こう云った私の声は、妙に上ずって、願っていました。それが、突然、犯人島だった事は云うまでもありません。

奈良島は私の手をふり離すでもなく、上半身を横入口から出たまま、静に、私の顔を見上げました。「と云ったのでは、云い足りません。ある力を出さずして、しかも静でなければならぬ。静に」です。余い、せつなつた。云わば半死、吹き折られた帆桁が、風のすた後で、僅かに残っている力たように、元に戻ろうとする、あの止むを得ない「静」です。私は、無意識ながら予期していた抵抗がなかったため、或似た感觸を抱きながら、しかもその為、一層、いらいらした腹立たしさを感じながら、黙って、その「静」にげた顔を見下しました。

私は、あんな顔で、二度と見た事はありません。悪魔でも、目見たら、泣くかと思うような顔なのです。つても、実際、それを見ないあたには、とても、想像が付きまじい。私は、あなには、あの涙ぐんでいるお話しする事は、出来るつもりです。あの急に不随意筋に突つたような、口角の筋肉の痙攣も、或は、察してが出来るかも知れませんが、実際は、殆ど、一刹那の中に、二人の自責が、私の心に閃きました。その時です。「面目ざいません」——こう云う語が、かすかながら鋭く、私の耳にはいつのかは、あんなに、私自身の心、私に云ったように聞えたときも、形容なさるのではありません。私は、唯、その語が打つたように、私の神経へびくのを感じました。まったく、その時の私の心は、奈良島と一しよに、面いません」と云いながら、私たちより大きい、何物かの前に、首がさげたかたのです。私は、いつか、奈良島をおさえていた手をはなして、私自身が捕えられた犯人のように、ぼんやり石炭庫の前に立っていました。

「貴様は何をしようとしているのだ。」

私は、機械的にこう云いました。すると、その「貴様」が、気のせい、私自身を指している様に、聞える。「貴様は何をしようとしているのだ。」——う誤ねられたら、私は何を答える事が出来るのでしょうか。「己の男を罪人にしようとしているのだ。」誰が安心して、そう答えます。誰がこの顔を見たらそんな喜似がす。——書く、長い間の事のようにですが、実際は、殆ど、一刹那の中に、二人の自責が、私の心に閃きました。その時です。「面目ざいません」——こう云う語が、かすかながら鋭く、私の耳にはいつのかは、あんなに、私自身の心、私に云ったように聞えたときも、形容なさるのではありません。私は、唯、その語が打つたように、私の神経へびくのを感じました。まったく、その時の私の心は、奈良島と一しよに、面いません」と云いながら、私たちより大きい、何物かの前に、首がさげたかたのです。私は、いつか、奈良島をおさえていた手をはなして、私自身が捕えられた犯人のように、ぼんやり石炭庫の前に立っていました。

〔奈良島之介「芥川龍之介小説集 四」(一九七七年・岩波書店)〕

問「節録1」「静に」と云ったのでは、云い足りません」とあるが、奈良島はどんな様子だったのか、簡

教科書の教材と同じ著者の作品や、別の著者による同じテーマの文章などを素材にした実力問題です。

◆実力問題集 収録教材例

ありのままの世界は見えない

美しいをさがす旅にでよう (田中真知)

流れとよどみ 哲学断章 (大森荘蔵)

水の東西

無常のリズム (山崎正和)

日本の耳 (小倉朋)

羅生門

猿 (芥川龍之介)

葱 (芥川龍之介)

待ち伏せ

俘虜記 (大岡昇平)

ベトナム戦記 (開高健)

余暇について

時間と自由の関係について (内山節)

働くことの意味 (清水正徳)

「もの」の科学から「こと」の科学へ

構造主義進化論入門 (池田清彦)

ヘミングウェイの原稿 (外山滋比古)

富嶽百景

猿ヶ島 (太宰治)

故郷 (太宰治)

夢十夜

夢十夜 第三夜 (夏目漱石)

「世間」とは何か (阿部謹也)

情報の「メタ」化

思想の整理学 (外山滋比古)

あたまたの目 人生の見かた (外山滋比古)

見る―考える

ロビンソン 哲学がわかった! (鷗田小彌太)

流れとよどみ 哲学断章 (大森荘蔵)

美を求める心

お月見 (小林秀雄)

日本美術を見る眼 (高階秀爾)

◆補充教材集 収録教材例

ありのままの世界は見えない

「美しい」の境界を飛び越えよう (田中真知)

真実の百面相 (大森荘蔵)

水の東西

無常のリズム (山崎正和)

「劇的な精神について」より・「劇的な日本

人」より (山崎正和)

日本の耳 (小倉朋)

羅生門

『羅生門』のもとになった古典

偷盗 (芥川龍之介)

待ち伏せ

俘虜記 (大岡昇平)

余暇について

時間の創造 (内山節)

労働の営み (内山節)

「もの」の科学から「こと」の科学へ

環境問題には「流行」がある (池田清彦)

科学の挑戦 実体論から関係論へ (池田清彦)

ヘミングウェイの原稿 (外山滋比古)

富嶽百景

富嶽百景 (カット部分) (太宰治)

夢十夜

内なる空虚 (夏目漱石)

情報の「メタ」化

抽象 (S・I・ハヤカワ)

醗酵／アナロジー (外山滋比古)

見る―考える

考える葦 (パスカル)

三角形 (デカルト)

プラトンのイデア論 (鷗田小彌太)

記憶について (大森荘蔵)

美を求める心

お月見 (小林秀雄)

無常ということ (小林秀雄)

付属DVD-ROM

補充教材集

◆羅生門 芥川龍之介 1

『羅生門』のもとになった古典

『羅生門』は、芥川龍之介が二十三歳のときの作である。初出は、大正四(一九一五年)十一月刊行の『帝國文学』で、のちに単行本としても出版された。『帝國文学』は東京大学の文科関係の機関誌であり、当時既に二十年の歴史を持っていた。

芥川龍之介が古典を取材した作品(『鼻』『芋粥』など)、『王朝物』と呼ばれるをいくつも遺したことは知られているが、その第一の作品が『羅生門』であった。『羅生門』は、愛読していた『今昔物語集』にもとづいて書かれた。

『羅生門』の大筋は、『今昔物語集』の巻二十九第十八「羅城門登土層見死人盗人語」らしようもののうはここにのぼりてし郎をみなたぬすむとのこ」に依拠しているが、細部にあたる死人の女の生前の行状などは、巻三十一「太刀帯陣魚鱗語」(たてはきのおにうををうるおうなのこ)から要素を引き入れている。次は、

『羅生門』の大筋に相応する『今昔物語集』巻二十九第十八の原である。比べてみると、芥川龍之介が、原にある闇の時代のおどろきとそこに生きる人間たちのしたたかさをまっつ、近小説らしい主題の下に情物像や出来事を膨らませ、緻密に構成し直していることがわかる。

《羅城門登土層見死人盗人語第十八》

今は昔、攝津の國邊より盜せむが爲に來に上ける男の、日の未だ暮りければ、羅城門の下に立隠れて立てに、朱雀の五に入重りて、人の靜まるまでと思て門の下に待てりけるに、山城の方より人共の數來のしければ、其れに不見えと思て、門の上層に和の籠つき登りけるに、見れば火藥に燃しり、盜人て連司より驅ければ、若き女の死て臥たる有り、其の枕上に火を燃して、年極く老たる、鬚の白髪白き、其の枕上に居て、死人の髪をかぎり抜き取る也けり、盜人此れを見るに心もし得ねば、此は若し鬼や有思て、怖れども若し死人にてもぞ有る、恐して試むと思て、和ら戸を開き刀を抜て、己は云て走逃けれ手迷ひをぞて手を指て述べ、盜人此は何ぞの羅の此はし居たるぞと問ければ、羅「己が主に御ましる人給へるを縛ふ人の無ければ、此で醜泰たる也、其の御髪のはに餘でなければ、其を抜取て、髪にせむと抜くけ給へ」とければ、盜人死人の著たる衣と羅の著たる衣と抜取てある髪と奪取て、下走て逃て去けり、其の上の層には死人の骸ぞ多りける、死たる人衆などぞ不歸をば此の門の止せ置ける、此の事は其の人に語けるを聞聽て、此く語り傳へたるとや。

【大意】

今は昔のときになったが、摂津の国の近辺から盗みを働いたために京へ上ってきた男が、日がまだ暮れないの城門の下身を隠して立つて、朱雀の方の人通りが激しいので人気がなくなるまで動くことなくそうと門ののまま立っている、山城の方から大勢来る音がした。見つかるかと思ひ門の上層部にかまういてが、見ていると、火を注のかにもして、盗人が不思議に思つて連子窓から覗いていると、若き女の死んで横たされたのそばに火灯し、白髪頭の老婆が、その枕上で死人の髪を抜き取っているのだ。盗人これ不審に思ったが、老婆は鬼かもしれない、恐ろしいことが死人かもしれない、脅しみたいと思つて、その戸を開け刀を抜いて、「おまはは何をしているのだ」と言ひながら走り寄ると、老婆の手をすり合せて、盗人と盗人の間に、老婆が答えるには、「わたしの主人であった方がじつになりましたが、引いの手配をする者もなここに置かれていますので。髪がたいそう長い方だったので、抜きたいようと思ひ、抜いていたのです。あれ。」と言うので、盗人は、死人の女の衣と、老婆の着ていた衣と、抜いてあった髪を奪い取つて、門の上りて逃げた。このように羅城門の上層部には棄てられた死人の遺骸が多かった。死んだ人の引ができないたの門の上に放置するのである。この話は、その盗人が人に話したのを聞き過ぎ、こように語り傳へているのである。

教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。

絵仏師良秀

小野篁広才の事 (宇治拾遺物語)

大江山

成範卿、事ありて、… (十訓抄)

竹取物語

立てる人どもは、… (竹取物語)

伊勢物語

第一〇一段 (伊勢物語)

第一〇七段 (伊勢物語)

徒然草

第五〇段 (徒然草)

第七五段 (徒然草)

土佐日記

一月二十日 (土佐日記)

二月九日 (土佐日記)

平家物語

猫間 (平家物語)

奥の細道

岩沼に宿る。…

十二日、平泉と心ざし、… (奥の細道)

うひ山ぶみ

世に物まなびのすぢ、… (うひ山ぶみ)

故事成語

食指動 (春秋佐氏伝)

漢詩

秋風引 (劉禹錫)

過香積寺 (王維)

史話

孟嘗君列伝第十五 (史記)

東晋 (十八史略)

雜説

送温处士赴河陽軍序

桃花源記

南柯太守伝 (唐代传奇)

古典入門

ワークシート (九種)

絵仏師良秀

賢人藤原実資、家を焼く (十訓抄)

大江山

行成と実方 (十訓抄)

伊勢物語

盗人 (伊勢物語)

武蔵の国の「竹芝伝説」 (更級日記)

土佐日記

黒鳥のもとに (土佐日記)

「土佐日記」からの和歌 (後撰和歌集)

平家物語

「祇園精舎」後半部分

「木曾最期」前半部分 (平家物語)

うひ山ぶみ

「うひ山ぶみ」の冒頭部分、及び末尾 (識語)

漢文入門

ワークシート (四種)

故事成語

推敲 (唐詩紀事)

漢詩

「春曉」の日本語訳 (土岐善麿)

「春曉」の日本語訳 (井伏鱒二)

「香炉峰…」の詩が引用されている一節

「枕草子」第二八〇段

「漢詩」鑑賞文例

先従隗始

まず隗より始めよ (宮城谷昌光)

臥薪嘗胆

鶏口牛後 (十八史略)

桃花源記

復活 捜神記

小国寡民 (『老子』第八十章)

三 野間（二） 水の東西 山崎正和『新書 P.46 p.51』 検印（一）	
漢字、語句を添註しよう。	
一次の「——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。」	
① 水受子（みづうけこ）	「 ねがうる。」
② 時を刻（ときをく）	「 に終わる。」
③ 庭の静寂（ていじゃく）	「 が引きつづ。」
④ 叫（こゑ）	「 な竹の響き。」
⑤ 刺料（さしりょう）	「 やかな芸術。」
⑥ 趣向（しゆきやう）	「 ちず。」
⑦ 表情（へいしやう）	「 しい。」
⑧ 守備の間隙（しうびのまげき）	「 を突かれる。」
⑨ 行為の極限（かうゐのごくげん）	「 を表す。」
二次の「——線部のカタカナを漢字に直しなさい。」	
① シーソーのイデオロギ	「 。
② ぐらりとカム	「 へく。」
③ ヌル	「 やかなリズム。」
④ ポンキョウ	「 の良いモデル。」
⑤ 音と音の長いカサカサ	「 。
⑥ 水をき	「 上げる。」
⑦ 庭を刈	「 めつくす。」
⑧ ソウカ	「 大物にすぎない。」
⑨ ソウカ	「 一々建案。」
⑩ オオササ	「 の町。」
⑪ 造型するタテヨヨウ	「 。
⑫ 芸術をシンジョウ	「 する。」
三次の語句の意味を答えなさい。	
① 愛嬌	「 。
② 徒勞	「 。
③ 趣向	「 。
④ 感性	「 。
⑤ 間隙	「 。
文章の理解を深めよう	
「——掘」と「噴水」とを比較して考えよ。	
1「たとくなく人生のけだなさのようなものを感ずる」とのどのようなところからですか。また文中から	
「 。	
2「こんと、くく」と「優しい音（46・5）	
から五字を抜き出さない。また②これはどう	
で抜き出さない。	
①	「 。
②	「 。
③	「 。
④	「 。
⑤	「 。
⑥	「 。
⑦	「 。
⑧	「 。
⑨	「 。
⑩	「 。
⑪	「 。
⑫	「 。
⑬	「 。
⑭	「 。
⑮	「 。
⑯	「 。
⑰	「 。
⑱	「 。
⑲	「 。
⑳	「 。
㉑	「 。
㉒	「 。
㉓	「 。
㉔	「 。
㉕	「 。
㉖	「 。
㉗	「 。
㉘	「 。
㉙	「 。
㉚	「 。
㉛	「 。
㉜	「 。
㉝	「 。
㉞	「 。
㉟	「 。
㊱	「 。
㊲	「 。
㊳	「 。
㊴	「 。
㊵	「 。
㊶	「 。
㊷	「 。
㊸	「 。
㊹	「 。
㊺	「 。
㊻	「 。
㊼	「 。
㊽	「 。
㊾	「 。
㊿	「 。

別売の『学習課題ノート』の内容を自由に加工できる
データで収録しています。

その他の収録データ

教科書教材文の原文データです。

指導資料に掲載した発問をまとめたデータです。

一部の教材について、朗読を収録した音声CDです。

〈現代文編〉

日本語の響き

羅生門

竈のうへ

死なない蛸

サフラン

崖

〈古典編〉

伊勢物語

漢詩

芥川／筒井筒

春晓／登鹳楼／静夜思／江雪／送元二使安西／

江南春／涼州詞／春望／臨洞庭／

香垞峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁／登高

※その他、学習に役立つさまざまな音声を収録予定です。